

## ディスコグラフィー掲載

### ディスコグラフィー【2024No.195】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：ベートーヴェン

曲名：弦楽四重奏曲

演奏：ベルチャ弦楽四重奏団

発売：アルファクラシックス

No.：ALPHA469

概要：

ベルチャ弦楽四重奏団の演奏会で求めてきたベートーヴェンの弦楽四重奏曲全集 8 枚組 CD で、2 枚ずつ聴いていきます。

【演奏】ベルチャ弦楽四重奏団

【収録】

[CD3]

1-4. 弦楽四重奏曲 第 11 番 へ短調 Op.95 「セリオーン」

5-11. 弦楽四重奏曲 第 14 番 嬰ハ短調 Op.131

[CD4]

1-4. 弦楽四重奏曲 第 1 番 へ長調 Op.18-1

5-8. 弦楽四重奏曲 第 4 番 ハ短調 Op.18-4

【録音】2011-2012 年

オールドバラ、スネイプ・モルティンクス、ブリテン・スタジオ

【解説】

前報のディスコグラフィー【2024No.194】参照



ベルチャ四重奏団のメンバーと使用楽器は前報【2024No.194】のとおりです。  
ベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲は、ZANDEN Model 120 導入後の音質評価として ZANDEN Model 120 の展開シリーズで、ベートーヴェン全集のアナログ盤で聴いています。曲の表情はそれぞれの対応するアナログ盤の報告を参照してもらえれば結構です。

弦楽四重奏曲 第 11 番→[ZANDEN Model 120 の展開\(13\)](#)

弦楽四重奏曲 第 14 番→[ZANDEN Model 120 の展開\(14\)](#)

弦楽四重奏曲 第 1 番→[ZANDEN Model 120 の展開\(11\)](#)

弦楽四重奏曲 第 4 番→[ZANDEN Model 120 の展開\(11\)](#)

ベルチャ四重奏団のメンバーが使用している楽器は、前報【2024No.194】で述べましたが、それぞれの異なる個性のあった楽器で、その音色が聴き取れます。

第 11 番「セリオーツ」はお馴染みの曲で、その名のとおりシリアスな表情で進行します。

第 14 番は後期の作品で、おだやかで静かな流れから一転して、ピチカートとスターカットの激しい動きに移るなどの意外性があります。

第 1 番と第 4 番は前期の作品で、古典派の弦楽四重奏曲の流れを汲みながら、ベートーヴェンらしさも出てきています。

今回は、中期、後期、初期の作品を聴きましたが、それぞれの特徴を活かした演奏でした。

以上